少女人の書

全

049.1
N342t
W

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t

ガラス使用

049.1
N342t

とはすかたり

中井甃庵先生著
同男竹山先生序

浪華江戸堀
發兌 鷲頭青藜館
書 同心齋搗通
鋪 鹿島献可堂

甃庵翁ハ中井竹山先生の父也翁壯年の時より見聞事實の教誡ゝ多くへきこと〻ゝ
をゝゝひ文ゝ書集めたまひしゝゝ〻〻〻

資時成篇者。舉要麗中。不復
省錄焉。積善之屋。憂也。與穿
積德。綜理遺篇。定詩文集。洎
和歌和文集等如干卷。又搜
斯卷於舊簏。淨寫以藏焉。蓋
一小冊。而一時偶筆。未足以概

先君子生平。然其學行之正。孝
友之學。立志之堅。守分之安。
憂國恤民之切。處事接物
之周且篤。則篇內藹如者不
可掩焉者。今欲掩而傳焉。世
之讀此書。以尚友之者。不知誰

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

后。先君子之卒。距今三十有餘年。音容已遠。乃者再校斯篇。思其志意笑語則涕血交頤矣。積善守先業。承之于府庠。其不克負荷一日夕是懼。而亦已老矣。嗟乎

焉哉。感極而書。

寛政辛亥芒種節

大阪府懐徳書院教授

中井積善敬書

貽範先生略傳

先生諱誠之字叔貴稱忠藏自號菴姓中井氏播之龍野人其先歴仕前田黒田二侯父祖皆仕服坂侯先生少游大阪受業于石菴之宅先生享保十一年丙午奉官命設懷德書院于尼崎坊請石菴教授焉府知閣學矣十五年庚戌代領教授其學宗洛閩一時異言之旁午褒若弗聞龍藩有巨姦發覺伏誅先生與而有力藩侯賜以既禀先生於藩事知無不言國人畏敬焉居家泊如孝友篤至行已端正宰物温而毅舉世愛重焉娶植村氏生二男曰積善曰積德寶暦八年戊寅六月十七日終享年六十有六私謚曰貽範先生其詳見于行狀暨蘭洲五井先生所撰墓誌銘云

世世孫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

◎年のねひやきうよりはなすてゐてうしかされうやしかそいとのか
よるの波ハきけなきまくらばしうとちなる紙むつひくるも、
よろいあるそれうちまくがしうさのあつうハうとくようう
ハゆほうしとねのふくろハあるてちまくわう紙あるハ海山を宿
てハあきてふをくろハはううまていうしくをしうてるる
きくちもふをらまハんとそれをすてるはくきぬうハいとせんう
ふれさはうふつさ夫も時をくれハあをすなうあをさきくも
しくてつ月恋ひくようあのをしうきをうしめてゆく
発まてハいて人のおりとれをうあんやあなつうれ
あちとうおれるふまくあれうこをくうて学起く年

有人をまつものハおをハさむる秋もなをきうよゆをくれ
ほとまつなるかくう春秋のうて年おるる春ハ夫のと
しハなくてふをうちまこハいうハをとなと起きうぬるも
なくれと人の老おいてのたくひをくつゆをはようつと庶
忘者くあのよ月されてもをまをまきれてとをまをくとた
ふさかうやうくよういてむはたうおは世やつうなとけをさ
きてはうハ山をいうぬんまてこの老秋をそんとまてるは
なるうやうおは人ハ山をいりてむ又山をやをそをとみつる
らいひそうをうをはのはうう秋きうハちらるうをうやと
おをくハうねなるう秋

336337

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

○百よせをつかさどるものこそ六なはなりけれちはりはそのの
ちをよろづのいらきをもてすくれハ行とるものおそひをは
ゆすみそもあまりよりいつ世をかろかるをいかに行とるれてさ
て指をおりてゝこゝはこゝとかそふるよ二まこゝのはまのそを
かたをせいろいろはくれはうすあるつる我百年いくる人ま
をなれハ九十八十あるひハなをそちむるもちゆをさをいそこの
しこを世をたをりゆをちるをのあるつる我ゝれハをよいをそむ
はれはをものこゝ六七ゆするれまをのをゆを四百ゆをとり爰
乃まをちありをゆなりゆすして老ゆるをれのおゝゝんはをゆをふ
をゆをとゝしをれをるゆを我をゝすをゆるゆを書あをゝゆあゝ人ち

やく父ちをををゆをしゝをゆるゆをゝ人ちをゆをあをて一ををて事を
なりをくゝゝゆのゆるゆ友もあるひハわるゝをゝあるゝをやくま
ゝを我いをくゝしはるゝをれなゝれれ行ゝゝむゝるゝるゝやや
ををもゆをてなをいゝをゝをゝをめていゝゝをゝをれゝゝ成ゝ八ゝく
我ゝむゝゝどゝゝ我ゝゝゆる勢ひあゝゝ

○人ちを世をまゝらひ人のをゆくゝ人ちをゝゝゝ

さの人よとうさはをうく人のちうこよりいのあうて人のよ
ハつうしうしゆ松をれをしいひあしてこの世をうてこの世
よすなる心をのけすうしうやうしとやまいかれをうけきうてゆ
く人のはをうをてをうしうすく人のうをあしうをを
つけうり海よ梅さしせいれきうに世をうをうしてく家なうしうれ
うしに春あされなうめよやすなたならはをうう諸うしうやうれ
ぬき

○かりうあれうをを春ゆうんうよちきうこのうみをうをうをこ
なうこやとうんうこうしは人来りあしていうをうをのをもうの
あうり日うをあうりとて先うをうる人をはハうれ松とうをやハれ

正倫ようをうをうを人やり夜のうをうよりをうをうをうをを
しうを師なうに八幸れうはとあてさをいうをうむを師を求
むうを松をうすをうりつ、めうあぬもあうをのやうをうをを
親とあのをしうふうをいやこを幸といいをうをうをうこをうを
ねもこうをせうて幸をに八先て松をうをあうを世を人なるを
もをめていうをうをうをれうをうをうを

○おうをうをつうをて、をうをうが松をうを出をうて、大をうを人なうを
ゆうをうをあをのをこうをうをいをうをて、大やうをを人をあうを人をと人
のおはせうをう

○人をうをうをうをぬ人うをいうをうを日をうをなうをあうを信れをのうをうをうをを

○このあり所、先ゝ佐のつるをのこさきあてかゝれよなるのなるを、
佐ゆとのむるんなり、あるはそのこゝろんとてをのゝ紙ゝひ
て、竹ゝ林茂葉ゝのゝ、ゝ所ゝ所ゝ受あとゝたちゝひさゝのあゝ、
きうゝのゝとゝるゝ、あやゝ、ゝ、ゝのゝ、ゝこあゝなやゝふゝゝと
いゝをのゝこゝやゝうゝまゝせゝあゝくゝとゝいゝだゝのゝゝてゝおゝゝのゝ
こゝの、ゝをゝさゝいゝおゝはゝつゝれゝくゝゝをゝうゝてゝなゝんゝちゝゝゝゝてゝうゝやゝはゝ
なゝのゝこゝ、ゝ、ゝれゝやゝゝゝうゝゝとゝいゝ、ゝ、ゝをゝうゝゝこゝゝをゝなゝるゝあゝゝゝ、ゝうゝなゝゝた
いゝひゝゝ、ゝ出ゝゝをゝゝていゝのゝゝゝ佐ゝゝやゝゝゝゝゝゝゝていゝてゝぬゝゝゝゝれゝゝてゝゝゝうゝゝをゝゝゝゝのゝ
こゝゝゝゝゝゝてゝあゝれゝゝゝゝゝゝあゝゝゝゝゝゝのゝあゝなゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝ

○人のうたをだにくいはるゝとて人はたゝるものとゝ
ろえぬるかゝるなれはこそ
ゝ
ゝ
ゝ

○ そこやうなほをみてこそやまひなし、深さそこやうなるとも
だ出るもまこと醫師なるべし、いとそのなるむ人にたる
てや老りといきんよ藥をあるべ屋あ受しものいたりてて
かなしといきんよくそりなあるべ世よあらんをこそとすし
○ そてそうぞ城まのせんいとあやうし
つるべをさくわを病人ほとしいなるやうつへなるうしめ
人のといつるべひきりほとろろしなるべ、さまたやすひ城いやすず、
見れ病人ほとしこのれるやあまひなるうしに死をこうとて
○ ろまはをもしほめてしさなるべし
つ京へ行うるひれとうきあり、ほよの四る士ほ老るあ、を淫

驚れるこ話へ行るるこわるこの馬わひ老へるこの言
のるれひよ話へほるのること言めてかるこさるむうひて、
るるをへ付をふ話りのへさせ話へといつるやてわりぬ、老
ふるのるれひも言のいるるぶまりれわるいるさのるなるあ
らるるて病おふるるのるれをるを城わるし
て、ことをもうるるゆへふ人りるへるこせんるるのいてものるう
せんるて、後をとう花るほるれとるれ花るるのるうるて、お
りて話るるるとるなるれりわるるを言るようりて、かをるはれ
金をてきなんるう家花るる住へるるて、いるしれありさるれ是
よるるるるるほいるるんをへるりるるるるほるあるるるるかんを

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t

ガラス使用

のこゝろ

○よいの社民のをのをゝくろのそねをのるまてゝうれしうよゝ
をゝこしれとねるそゝゝゝれとてゝらをゝたゝうゝる大きうなゝゝゝゝこゝる、ゝ
社なり

○わゝゝゝ毎社あるゝゝゝゝうゝを我社ゝゝのありゝゝゝ堤のゝれ
ゝゝゝなをゝゝゝ人毎よをゝゝれゝゝゝと呼我ゝゝゝなゝゝゝをのを
ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれを毎むゝゝゝよありてゝゝゝゝゝた
ゝのゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝて毎ゝゝれをのをゝゝゝゝ

○くゝゝゝてゝゝゝゝゝ川あゝゝゝゝゝゝゝゝゝをのをゝゝゝ
をゝゝれゝ所のなゝゝゝのゝゝ出ゝゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ川をゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むさぼりをのまつの枝にかけ、ふくろをたうしあらハはや
きぬ袋あてがうけうしん心をおとめんとちるものをとてせハ
しくちるなく出てこのをおとしあしぬうこうハ
人のいうこと聞ずていらしぬ出きたるをんな
とも作こあらぬこなるとすれハ生てかたはらいたきと
○梅をうゑ、花をとるなとしハ出きたるものくいなるこがしこの
松の絵つしをえをかたれ所よりはさそうしておとろく人
乃方所さかまとなさのうこをしよなるこざうてとこしなく
ゆみとうふうく所をわうて多の数ものゆゑとしとめつ
らしけなくれをまうてしきまつしらなのおとしろうなし

きこゆるの松所おたうしとうけハうのあうしかこ
とも覚えぬうしいつ人とあり、係る松をのこれこさほ
あり、書よろしく風よろしく作りをんなおみさるあ
ア、書よろしく、面よろし
○けりまの國こ者ものあ、やうちまあ体姑、やまひまつて、あ
こし者女をうりやもあうこいなふりもこさ公そて
笑しくれと姑こ性こうこ者てよくをあくてこぬこな
しあるが子のなるく人のらうをほしふして、まこうこうして、
を村人らを主をを志りこうこんなをこのタまめの村
ア主をこの村を者女の家こ主こ我者をこひこ

もんよりくさもゆき世ゝをハうけひこうとゝいふあるうちなき
ていなをのまををきうしねつハくをこ天いうまもしていさう
つゝしの給くとゝいのさをもわうる社命ハ行ゝ百をゆとたゝ世ハ
左めなるゝみをくて始社命ハ稜社百紙ほうかゝしこのをゝと
らまをゝる百ゝををゝをのまをまうゝ母あらをてむ行ゝく
なゝハをの世紙をつるうゝみなるゝしをとて法わる百から
す村おさあをハうゝて法をうゝゆをゝてこのゆ紙せをいひた
をゝわひをゝゝをまをゝ法れゝ返ゝあゝ久ハ赤穂城
下本は村をものなゝ

○うゝ行ゝをるゆハをれやすし公のをけゆをうゝなをいをは

ゝうゝ行ゝをるゆハ犬やうわまれうゝゝハ法ほうを凝うゝなる社を
なるゝゝあれゝ行のやむをうゝゝし吹いゝあをとうゝしをハ多
ゝをゝめゝをゝをるをうゝゝ雨ゝうゝゝるゝハひゝをゝをを
手社をハは光をゝすなをゝうゝわゝをゝを百をゝを吹ゝ九
十日ゝ世ゝゝれゝ

○祝ものゝゝをゝゝハゝ善紙をゝりてゝゝやせをいゝ法ハのゝいゝゝめ
ゝゝをゝをゝゝめゝを祝をのをゝゝゝくがゝめゝゝいゝゝゝゝわをゝゝを
ゝゝハゝ紙をゝゝゝゝゝゝ社ゝハゝゝゝをゝをいゝゝゝゝ
ハゝゝゝゝゝゝゝゝ明ん祝ゝハゝゝゝゝゝゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝの
をゝゝゝゝ昔ゝゝ人ハゝゝゝゝゝ今ハゝゝゝゝゝゝゝゝ法ハ

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

いうなとなくて、取をとるもろいとよりて、所をとりまとてゐる
なりとりてつまをとる我てこなり
○うすいさをの於ろうしてを深てくれし
うすうしを於人のいひなし少しをとられて
於て人とうなやらしをいをまいうて来てをうるいらてのうう
ゆうういとて里て出て里てをうをしうる成しおとされて答へい
まとうよをを見よ人ともをうはうすくをもをうて来をとけよを
業をを人をようをいうちをのををしのまいちをものてろろ
○こひいあられなををよけを、まくてのちを対のを人なをを
ならををををををわて来て書ををつて話ふをて

ぬきてとをうをねてなをいひ出をを分をみてたのをうも
見えをををいををのなををぬわをもうをを旅ををいつををあをを
乃つををなをうをををををををををわをををををををををを
仏皆をを家をを名を人をををいひををるをふのをのををまをるををを
ひをものをを心をかをる事をなを於ををのををををを用意を
らををを気ををををををををををををををををををををを無を
る事をををなる成をを於仏ををををををを見を
○ををを人を於れを於をををををををををををををををををを
人のをのをををををををををををを用ををををををを
をををを出をる於をををををををををををををををををを

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

それんむつうかうろひもれさるの成のと云ふ事
所にはうひしうろうまつ花もの多くあれ

○碁をうむものは見なうかくはすくうよんうも社見あるといふ、
こうろぬきとくなく能ろうれをのまよ求ひうんうきて、
人をせむる心おあつきう上ゆあるうんうかるをのきをの
うすんるよ所ろうこあるん碁をうみるんいしをあろ、
まこあてうるやをうんうこうよおろうんとかこうなる
上ゆようるきをいしうもあり乳んうくもありなんきうし
とてこふなのあくうるひうてこよちんとらうさうとて盤ゆ
むうろぬるの城ろうを国ゆいちうろわうこねとうこの人こう

ゆるうるのいたうひあるこ

○小ゆのいろぬいうこれを求ゆてめうこうこと筋ゆいきてうれま
ねれ京をうなてむてあうあ小ゆ城いうおこいうれこむ
あうれるうむなこ

○人社うは社つうこれ井さうむなる小ゆうひよ深るるうさうなるこ人
小ゆくあこれうきゆ考うあこ小ゆ社ろうもうこうるうこ
○ものなる者小ゆうこうのうまうてうこれ社なこ社ねゆうるゆだひ
まれのううこれ深あうこせこうよゆうこ小ゆうとうこ
ひうくなるあうこうさ衣をうきて、うまうもうまるゆ深のうなうとおうゆ
休うゆの小あこれうこのありうこうのひうこうこあうゆのゆ

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

たなこゝろおもてのうらめ。のきをうしゝ人のなきあとゝろ哀さうゝ嵐の
猫をねゝうゝその者なをねをみつのゝゝとゝうゝものゝを
よわゝをゝてねゝこゝゝうゝあゝていねゝつゝなゝ

○ゝゝぬゝさゝは國ゝゝゝ

きぬをしつらひていとあらのこまのようにせ
ばかりのつぬきぶくろ出てあれまくやいうせんとて
うにかきぬせめのきるをきるをいとおしむとせんやうに
○とせんやうにやうにて人にあのむきをしおきうりて涌さく
きるれば下ことの品よもまさまれあり
○出たてなも膝をいらるをきぬ袴の衣も風をふせくり
外用なし道ばたの数あるも役りみつき人のめしかのやん
ことれくとみきうえんらるきいい味をたてしてとものき
きまりてのうこしつまおりめめてらるをうるねくもさうく
つるきもさやうなうらいきもうようたうみのうとてす

ハなきめるれうきさうなうとうたがしうつうこれ
みかうこうらくたうていよくこのむたうひうきをきのしや
ちしいたうきもいたうきとうこうをハものうなうさ
ゆゑ盗のうれくさうきてうあうひうしなみうあうとさの
しうこうめうあをくうしなみうのうれもみをゞのしまむ
つうくあえつちれをのつうなうたしうきぬうようあう川
あうゝうめたれをのれをひいつまうあれをハうぬはれ
○月一ぬれうみうとを用わすというう人もいうしむとむきハて
○よいううてうきうれくようなうとれしてていをしうとも
まてわうてハうなうのうひうとうのうられをあうら

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

ちてちかうるんきてて一日は朝夕ものあり

○大やうよりゆるるえはあるうるもるなるあるもの

うひゑくさまくさはよれなくこ様さるゆくあるたくはか

くぜんとのくよのとのうるぬはなるえるはるれは、

とくむるるあくよくるなるはるくとるくむまくて、

大やうう行くと写るよりはまるくきをくてをのまるはは

とくんなるくてをるををるくるくるくはるくるはの

きるよるるうるものはおあいくるはるるるるるるるるが

事くるひよくるひをきるるはるくくきはるるるるはは

ちるるくちるるくものはるくるるものはるくるるるる

しうるるるるるあるるんるるるくるるるるるるるるるを

○るれはちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

ひくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

○このるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

世をるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

よくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

もらまつの一ぢくハやすらて世をわたるんものをといへと
いなうしすてるなりしそのをとつさ〻ハうれの
○一、諸のあるに出のもあるなりといハをのこうらうた
てうれをそなまつ一いよ〻をのきあたてあれひんなや
あられれなるしるんとてこうひつまをしまうん
とてハひろあものをたてきむうしまうむうんやハと
しのえをのこなりとむこと名つ久てあハせんとてづね
ようけ引いろなの一義をまうたしめ一
○世おれるるるはたさて八をのことわつ一八一くなりもてや
京国のつかえれひくしはきハ上八下をそろ下八上る

もとめてつかよふくとれ一が一これ京うこにおそ一ても、
世こそ一まて出のあるんをとみよ引のつさんるすうう一、昔
うりくるれ小條氏さうりなるこれはの能ををむの事
教さんとそくとあり能をハはの外戚をきハとやんことなら
るつさ世をふくくの人こ時政うめするうなるんやハ人おは
く紀一つまつふをのまつこの法をあハを奪しなと百ふみ
吉ぢうんとつふ能の母ていハる事ありをよせんハ褐ををの
くなりて一者の用をを強るくしとめ一ぢるハさ百ふ
七人とあて今やうおやんとれをハかりろ兵のありさも
二百こるを国よりすのうるハなら紀ものをうをまハと

やうかさるとうやさきハうまてらおなじめやいこまのやつた
きこおやしゝ記あとあるといふことのかよせさきゝ人のこ葉
をよハさてもあるへし
○あるゝ所ゝ可ゝ有ゝ人ゝ
きつゝハあゝ心ゝ社ゝハゝ
ゝりゆゝへゝいゝゝゝゝゝゝいひのゝゝゝる著すゝろくもそある、
ゝ仏ゝをもてこのゝゝ所ゝいゝとゝみゝる人やゝゝぬあゝこゝりてほゝゝ
ゝ生ゝ
ゝかゝとゝくゝいゝとゝゝのゝゝゝゝゝ
ゝゝり思ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○あやはうし八猛きうを上てよりて、おそれあり居うはし、
志やあり久世、家のうせ、こゝに、こゝ、ものいもねしく、そして乃
ち、なるこち海はうれまなひしきうりて、久しきつゝしみ、
いつくしやつきくめ、ふ八海をこめて、扇をこんとして、きわて、
きくしめくれをおらうして扇とりて、そのるゝ八、
きやうつうれの形ふとうこひて、涙こみくり、おうこと
てあられなきはさくくこゝる泣くく
○おらうつうふるものゝおらのゝをとつて、おうこゝ、
ゝうきこゝこゝこんみうれこゝん時八、ゝのゝるゝんこゝて、おをいゝ
○すのゝうれいゝこゝきもゝこゝこゝこゝ、こゝをきりて、ゝをわ

きれこゝ、中ゝゝこゝの、ゝゝゝゝ、ゝなこゝ、ゝこと臣と八義を
こゝてよゝこゝあゝこゝ、八、ゝのゝこゝぬをおゝきて、ゝ、ゝ、ゝ
ゝゝゝゝ、ゝゝゝゝ

時よりて面それをうつろふ雪さながらのごとくなるは、燈より火おろして雪を窗てなるべし、菊よりほのかの花、雪のうちにさかりあまたこのほひあらはしたるなど無しとて、松をたれ折れば
なとつたへて、この雪いとよろこばやともとめ給へ、いとも
さねのみくくまきとていひとりてさしむかひるるやうにて居たり
見てゐたるにあのくなしふる、折まれくいとうつくしさ
らつ、雪ちんよりちいさきもあるはおりて、なるべしつ酔のまぎれ
小さうらうしきおうしふる雪月はひらけたるこゝは新おろし
ゐれとあらうしきすることを西よりおろし、本の竹結ぶ墓よりく
きをうつる、彩ふるをすのこ端居しつ、碁をのこみてるよう、

氷そこきなるまもとよりふるこのひとつのうつくしさ
やなといひ出しおそれをこのくを保なるべしつ、まのつるめ
といふをうるもうらうておうこの雪の盤を
つ、花をくくろ八大やうのようにたるようなしあいを
ねるしつ友なと、雪のあるうるあるをあひ人つるあるうハ、
碁のなるれるるしとて山ともあるを碁あるを
ハうをのうとのるる井器ふとにはもしろをのくをせかれと
くとこのへふる酒をうれりちしみたるうてうつのう
破ゆる人もなるまハうつ此みゆる雨もれ、さすうう
ふつうのなるてをするをふとうるるるて詩をあるる問

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

るまのにおいはなをかぶりてもまくせをたかぶ
いうまもてゆんなをみるようるをふ
せ、絵舟おまるまをてるゆ、俳をひしりつるもおるをれぬ
をかぬこをてせめ、秋おをいうれをあをいてをもおをなをま
乃をるるあるうを結初るむしをおをきのうまて、を
ようかうのおををこれて山のを絵をえるうちを
をあるこおを間をまるゆる、をこのををうをていつるるおるを
やとふるをおを見えるあるつをのこをみをする祢やのるをみ
まてだをひあをてなをれをうかからやるかをつるまは、
年をらひてるををあるれ八をおをいふ於智とををし

○武をてをう、文をまれをむをいつををのしらひてる
も忘をて八武ををうをを姫のあるひまをを國をうり
なるをるのをを用ね人をいつひのををなるをのふるるハ、
いるをへおを雪をの武國をれをめをるをを中のふるるし、
春夏八文をう、秋冬八武なる、秋冬のをを考夏八用なし
いひをく、栄をなるんや
○あを人のをのまるハ利をを休をるををのなをハも好を
ひををも法ををんるなをるをを作をいつあををます紀海し
も好落らひをるをるをなるををてるるの利なををて吉れるを
をを春あを作ををを人ををるれをるるあをて、をのををるたよ

ものなれば、ものうあきたすきこそ
まいらうあしい、ぜいはいぶれい、をつきをしてをのつうた
ようなあんをいはのしこそもとろしとけらあれやんと
○なるこそうまくおちさもちひまて、ゐれ民ようてろろ怪
をこうをもをくいやしとせんや、古おさめ、民ごのしし、工
性そ、あき人のくこそすろ、ばるろおちをすしてらをを
をるこのをの性のろおち利、のそれてわをのうちちよあつ
とむをて生しをらこををきゆ
○いつおころよやあり々んあを人のあよ盗いうてあるしおち
○いぬるるらしよるのううて力をむねるあてしたうある

所をしつよ性ろすいろうをんといつあるし おをよとめうちさ
ゆ性ろ〳〵 盗の教をろくさてゆるこねおりるゆさよ、
ろうろれんのかれしとて、おあるんやあたあてうとうさ
をくふをのをうせんさすハカなしどこうろ性いつさ正お
とを出ひうこぬゆなをこうをぬを人とひをうさてうらう〳〵
性なみるおとしてありうこの紀をしこのよをうをとおそろ
しおちのやいうはくおち人をおそうるよかうやるし又
うろやうれいうしさこうさ音 なし今ろうきハや
うんあだをそてんとて、のうら残ふせて、あをさ人ををのこか
さいていうのとうをて、体ゆをのをなるて性ろハ拾ゆ性

いつたうのをしかしてをのきてぬとれしてこしひさ
ねるものとを拾ひあつめるものとせんつまをうつのすなる
とてやうてまのういてぬお事はは書るようつことなくかく
るものいきてくえをうつてあるてみたのこちきてな
けくまくくるきあうあるしうをみるんいひうけぬあを
うを紀さあ分ときみく覚しをまるこうを床せんとやくし
はうこうひさゆうこのとものかれうこうつきてみこうわれ
ときはうなるを第ておはやくのあこうのめうこうれしつ
こさいれんあううて後はを作しして十合はだうれをちを
と、ねのうふをうはんをもきうふをもみせをうをと契と

まくかやなくをを料まてこうをみこはくふうこうをてこ
年へうほうはぬす人うまいりうせれうあうしは役なを
笑てうえしこくうはを線ひてあくとくこうひれ
ぬうをのれをきを線おふをうひれ料としてふうな
ふのよ孫ふいひをくうはうしはうをのち堅の百
まをてはをむうてうふふくしてへうをのをせなをせ
しへをを孫なのうしへ塗へををのをを石川といをものよて
あうしはをうをへを係あうとのはをを
○つをしを結をてせうをてあうをへあうぬ新なくふををは
はくしの國ようへ光をうる人新をの国ようへ音楽をうをて元

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

なの京つよにせうやとて出らるゝ伶人あまたむかへてこゝは
○ねもすうてゝとのかのこゝろうしてさてをのきハたゝ琴を
伊てゝうゝらきを奏してむくひんといつて伶人ゆてなるハ
うゝ琴ねひまかと思ふよやて琴ゝう出してひゝきのハ
ふるめきゝ調のつゝひゝ所むゝ一曲拍子といそんう
ふれゝきもゝなみてあるゝしていうなる曲ゝとゝとも
誠のたゝゝとゝこれゝるゝ世をふるゝよゝ今ゝ世やうよいや
しゝくゝなゝうゝをのまゝふゝきゝ人ゝたゝくゝるゝのゝうゝな
きゝゝの歌ゝつまゝてゝこの曲も行ゝ来ぬゝしゝとゝてゝうゝるゝさ
てゝわゝきゝぬ伶人ゝらゝれゝをゝなゝるゝんゝと思ゝるゝのゝやゝうゝぬ

たゝゝてゝなゝるゝゝゝとゝきゝてゝくゝやゝしゝと人ゝのゝうゝるゝゝゝし
○琴ゝゝ言ゝゝきゝくゝ牡丹ゝゝこゝのゝうゝひゝゝる謡ゝより笛ゝゝ舞の
ゆゝきゝ夜ゝ川の月ゝゝ夫ゝのゝうゝぬゝゝゝきゝのゝおゝす月ゝゝうゝてゝふゝき
ゝゝゝゝゝきゝをゝおゝゝゝゝゝ

なりそぬをうとうるもいとのうきせやらはすくさをなし
てもあるいやしくして上へめされあさ人へうるとさ業をと
う上へさしうれをぬるるものいうはくそてをのきてつれば
うてうさうるうるうる

こまをきて其あらとぜんぶをもて其労城をする
○ちうまれ赤穂森戸ヶ坪下まで水つきものをめきをる
食ものときをる人いりめをはうとて俵をひらくに紙こ
つみるやさ米あらなるもしるまれきをしこの初穂
こくこそ分たるとのきこうこひ出てとつこまこと
○うをるなるこの志れすしてるぬあなしらしとてよねこ
てあるこれこいつのこの民ちこうやこあこんこ
うこたるこのこれくあしんさこふうのこもなまの戸ぬこれ
むさうなのとまくるいておさ日うていこひこちこれの
あふとくこのしくこちこちしなこうおさむし

○世七

○世をて人のすをねこうおすしまつてこうやましこれさす
こ都をてこの行のあこうこおとこうこれこうなこひこひる
○こやうこハなくこのをひのかどこうなこうこのかどこのこ
とこうこあものこうこおすしまをひもこうこうほこうこひこまこの
なる登つこうこちこのひもこうこをこかのあこれをたこんあ
る人のすしますしかぬこうこのこうこのすまねこうこうやす
しこうこれをこひこうこまこはこやこうこのたこうこうこてこくこうこハ
ぬものこうこ出しこちこうこ紀こうこうこてこうこまこてこまこの用を
ほこうこれこ心こうせこうこなこかこうこひあこひこうこるこふこうこしこ薩
乃こうこうこぬ位居ハこさこうしこをこと用こうこる志こく抜るみ

こゝきいまて人の新はつりのくらゐ所の姻、
こゝきてとゝのはて屋の緑なりまと、さるいひまゝねるひも
うちとゝのゝ新家のゝ香ざとゝれるの一きれいへをあゝん
むつの一かゝんいを拍風ゝ一まゝうゝさを忘のも拵ゝきゝ
ハおろゝ一く雪はゝる白ハさむゝうゝあれとゝうゝたた
らんありまゝ社徠ゝて一ゝうゝ、徠なゝぬのゝうゝハゝゝる
うゝき学ゝをゝわゝゝゝゝまゝてゝ
○角あゝゝの分なく蹄ゝよゝ死ハ拵なゝ一岡ゝおゝゝのゝ木
ゝの屋ゝ、人ハまかゝゝゝさ新ゝよゝのゝきゝゝゝゝなゝ風ゝ
ゝのまゝなゝ一ゝ完ゝゝ手ゝ屋ゝのゝゝゝなゝゝゝされを緑城ゝゝて

○

ゝ新ゝ、ゝをゝゝゝゝて新ゝ一、かのゝ歌のをの屋のゝゝ事
ゝゝる似ゝ、人のゝちゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ分
のゝ新ゝいゝゝゝあゝゝてゝゝいゝゝゝゝゝゝ大ゝゝハゝゝゝひを
○
ゝく一下ゝのゝの世ゝをゝわゝゝゝゝゝゝ新ハゝゝゝゝてゝゝゝ一ゝれ
と、ゝゝあゝゝちゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝて人のゝゝゝゝゝゝ
世ゝゝ、ありゝゝあゝゝ風ゝゝゝゝゝ拵ゝゝんゝゝゝゝゝ一ハ風ひろ
○
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と、ゝゝゝの風ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
○
世ゝ、峰ゝゝ一ゝゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

○やんごとなきあそうじ、さるうかーてまる人ぶでかとれこの
を伺ひてさいそひを求人とちそなのまてわそひをそそを、
媚をきりて、下さものうまてそれそ大やうしそはすそのれ
なり、民部卿ハ寒ようるほひ、国つ風静みなといふ、の
之耳よいまそく諸よまの舟とそそ一行ものとそう
なり

○ほやーなひ分ようとひ、雨寒のふもそるそのうつそ
男よぜちかるハなそれてこまそそるもあそわすれよと
ハ後のいそんやまあれ程よのまてとなりふそれめれ程をす
き及ハあそ分れやまひをまのねくなりふきんみハり

こゆそをそのなーほんにあそさよなをものつう程をえ
衣あの所のねとそまそ、分りのなへそるる家ハ夜みるし
く、窓あのく、南あをてなりうやふそれうさ風不
よ丑のせてさそ一せまそをもてほくに夜のひろきよ
し、舟おなく、石のちそれきよりーあ方にーまの松舟
ハ更るまいを夜、接さくく、夜ふやうれ、秋のそをくもそち

○あのようみとうまといふ世そろまく父母ねんつうひ、
いそうねそまれ一ぶまさたそハぶをおー、れよのそぬ
見ぶあのさ、衣をきの一ふきのまをそれすそよろぬみ
そう、れろのなりそまそう程つそせとれをまそーとう

はゝ母なゝものうちわりなどきれてとりおさめぬのをと
うり北ゝ方のうせむとれるよれさえひろきぬをきりて、
いとおろしみのさかちろ、国のさハ氏の父母なり、ゑとき
うすてらくいとおしむんよハ仏ぬてあれたろこのよくや
なゝハのるのきいうくのうしろきハ氏をるゆうこと、赤
まれめしとのるよ

○光孝拍子をきくよむうしく、嵐山の井のうしらぬすみのと
うきうるひとうむすあるよむうとんとんとうくハさ
よくものうてをのきのむまてねこのおうきあり、峰たと
きのうしるとくおろうきなるうんをと

乃うむきうねきのちをくしきをみいてゝ人といてものゝ
あきゝふうきいやくさ、ふえくいのたくうしのうしの上を
見うよ月ようう静よとうしれくなれうきをいうるといゝ、
くハきのくもめうちうなるれとてやうてちをものを
使としてゝ公使をくちるう月きうくゝ見うておきてうき
れとうきるよ、ゑうさくハきるゑきうう上あきとのうのうちを
をのうりて告くゝ作くハとて出はのうくいうすきてぞうて
てわきうくさうんとすきハ風ふうきうきうう風うう上なれと、
つんかううう告くゝ作のもくゝゆくゝ風ゑてわうふくとうろう
をのあのなしひとうねう屏ふを弟ひうきよゆうくるも

あるをとりてぬり屏よりそれをたくさんつくりてさうぶをも
ちゐるよりあるいのなるものをもあるのうへにいてたうるこゝろ
さればとせよ八つよきものありてわの殺よあををうつ上
の上にとのそもるをこゝ八をのまこうねしてむこるなんと
孫ありとつなるものの六ハ八つのこゝ作るとこゝ八名をそ
ねすることをいてをいてそちもつるものあるこゝをのゆく
そちよくものをもあてはとりて峰そのむをこゝをゆき
八をこゝとて回ねすこゝあこゝをせられをこゝれくこゝみこゝの
こゝうむこゝしくこゝとつこゝこゝのこゝ光のこゝこゝてこゝつこゝこゝやう
なり世のいはゝ光まこゝ八こゝあるものこゝこゝをこゝこゝこゝこゝし

かの香こゝうすこゝ光猫こゝ爲なこゝ八こゝこゝこゝこ

○る事をたゝまつりかゝるこゝろのうちに人民いとうつくしう、
あるはいとしさ信ぜぬ花ぞ散る秋やもめ〜つきて寄るよのほ
ひとりうらんありさまてゞいとくいふとのまゝふの社信ず
ゆをひろめ給ふ人間民の涙をてあ〜民あつもてみ
ずたるなく、なをれたるとくこのあらんとろ〜大うつけ
て信ぜぬのこゝろまゝあひていつくしきものなをしき
物よりいつふまたこゝ信ぜときひ〜なきと、きつく〜ん
まもるけきたうとあるれをなん今世をて人犬やうう乳
ハまきなるこゝをのよ乳ひして家をも国城ものくてみん
とて、おて信ぜるかゝるもあるこゝあるこゝけて、ゝ人の民

もいさめすたるこゝをわるこゝせるなとこゝ乳はいとくそゝる
足信ぜすれとおて信をゝ足ハたゝめ社ゝとゝ乳なたるこゝ
ゝもく信をのこゝ足をきゝうしもゝ勢こゝ足ゝとおゝくて利
こゝ足ゝ乳ひく

○いつゝたゝるゝやあゝ乳んなるこゝ社ゝうゝ乳ゝ乳のおす
ゝ乳あゝゝそひとゝ外ゝうゝ足て、おゝめ足〜こゝ乳ゝ
ゝは〜ゝ足ゝりとてゝゝこゝ足ゝとゝきこゝうなゝ、やゝこゝあゝりけ乳、
ひゝゝ、ゝ乳ゝこゝ〜なゝる人ゝゝゝ足ゝゝ乳ゝゝゝ足ゝて乳ゝゝ
つゝゝゝをゝゝゝ

きるくるきあるねとぜんこうなはけきハとふなるうらたくいいて
きて、のけかくせることなるしやゆ市ゝハきやのくゝいきよこの
うねおさんよハ物の恥ふのしゝいのちもきるすとゝのりなるめ、
かつおとゝてとふよをのこつやくゝきのやきいゝてたのくゝれ
ゆかはをなのえてうきかゝりよなるうぬうれ夜このをのこう

○せくうさて八ぬすんこと弟きふて人をうきてうきぬうゝ、
ちのさ釈迦堂よりゝきねてこのきくゝをのきぬすこうかゆ
八はうゝふくといつをろんさゆうてきゝれよくゝ年くう
ほおれゝみうちれゝトをのこよそやものあゝぬすうてきゝは
つこよきくゝうよ老のきうれんやうえやとて人くあ

○きまるゝ首れきの月ゝ犬刀とうよむうひものいうんゝはゝい
とものくゝとてさて人くゝよむうひゝうふくゝもきうゝ先すゝ世、
ゝとをふよゝうゝれトをこと、ぬすゝ人よ市ゝきてきゝれぬ保
八そこのひもをのきあすうゝれかれをのこたのくゝるゝう我、
せちゝれくをひちきゝうゝ、ぬをゝ人ゆくゝのなくゝ月ハおんいのち
ちはのくゝきひとのくゝつをやてきゝうハをのきこの命ゝハい
らせんとてきゝれくゝるなゝうれかそれゝうゝなくてきるも
のゝのくゝきこをのきこのこもあきれをやくゝる
ふくゝうやものゝむとせゝよいのちれしてきゝきぬきゝうハ
いそそはくゝのゝのこのひくゝる今きゝれんとつゆきゝハあゝ

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

らをのとよいてなさ羅おはせんらのとよいをて孔なんう些
ーゝ社ハつのなゝ人今ハ用なし首めをてさゝ出して
さゝわぬ者拍子もこう孔るもあり
○ある人母おやおるゝなりゝるゝ時俚諧おの句よ名月や峰く
らゝをうみゝれゝりうゝてねもきうてのなさきさうゝ式
二句人をなゝうむゝるあやるおなゝうゝくゆゝあ
のせゝてゝ苗ゝらゝゝゝ名れゝとゝゝきといゝる句ハかの名新
ゝなのトもゝみゝいなををよさて秋風のなといゝもも
なゝゝゝ通し
○猿楽の数らちよゝいゝゝさあゝゝうのゝろゝ名ゝ法上をとを

ゝたゝゝる能あゝゝのゝいゝゝをゝゝゝれの曲おねをゝゝほ
と指よねゝろゝもいをすをわゝゝたををきゝと学人あ
歌おをゝゝろとかんゝしあゝゝ学まゝうゝ脇ゝうゝちゝゝて幕
ゝいゝんゝとゝゝなゝる義ゝゝみの間とゝゝあゝゝうよ能ゝゝて、
やよをゝの人もゝゝ学ゝたゝれゝゝもゝゝゝものゝれゝて、
ゝゝゝゝて能をゝうはゝて能ゝをすをぬゝハほゝゝれんと角
ゝゝうはゝゝゝよあんゝの外ををはゝゝゝるのゝとゝゝゝをゝ
なゝてゝあをゝゝゝれぬゝてはゝなゝるゝゝあいゝの狂やゝハか
いゝゝゝものをゝゝゝゝゝゝれゝゝされあゝゝておのよゝゝゝ
と、あやゝしむゝのゝをゝてゝのゝゝの体やめんもをすゝをゝてゝハ

一きたりとあて、秋のんやをうしめんとて、まつたるをつね
ゐ上なるさ上なるとなるこうぶるゐをしふる間、このすを
うゐついてくをのきらんをはるこるをとて父のうものなう
とて、涙おとしたるなんほゐやなるこうとのし
○あるあるあ師、弟子をしていはくとさのあ、世ゐ
いうこうとるたるこるをて名人なるこさを志をきるこうてやいを
たるんとをるハ上なるこうこのこすちのこを殺ハゆゑてよこうち
ををてあるををるものハゆをなるこうゐ今をしめて学のハ
初心なるたるこたかくのとしとて法をえ川ふを模城をして
むるゐをたゐの角をゆゑもておくてうなんるゐ人の位なるむ

うゐの左をゐの位ハ上ゐるうちうをたのうをて功者なるうたのゐと
ハ初心し初心ゐうう学ゐをたゐ名人をああてく功者をさらをこ
名人へゆゐ毋とせハ必ゐ上をへゆくしこの道なるくし今れと
上をゐうう名人のかとちうゐをハやをくるのゐいうゐをてく上
ゐへの道なるこをゐいとをて大やう功者をゐ角へわるなう功者ゐ
角ハをゐをるるこうこうゐ人ゐをこをるこをるこをゆひ
をてゐをくてくこうの所道てこをてゆうゐ手をるをて功者
のこのゐをゐおるこのあゐゐちゐをゐをたゐ名人をんをこれハふて
ひ初心へをうをこをこの道をくてをていうこをゐなるこのをとへゆ
名人をうゐ人ゐをこのむうゐ角をこのむうゐをとをて

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

[illegible]

此かきそこなひ書しつ書ハ中井甃庵先師のかきおつ
めおかれるつゝをもてなきふみなりとを父のかゝし竹山
先生六十ゝゝのむし上木して世ゝに出さんとをゝもふなる
編は是れ神のまゝふゝ板面あらんとをもて世の埋木あら
ぬをかなしむもの人ゝなりあむしゝのゝゝくをえい
ゝぶしらをゝ数をたきまして世ゝひろくせんゝ是を
直の神はたまりゝ速しめゝ幸ひなりんゝ[illegible]

嘉永二酉年三月

書舗青藜主人謹識

かゝまつかゝる終

嘉永二酉年三月補刻

江戸堀壹丁目
今津屋辰三郎

心齋橋通北久太郎町
鹽屋忠兵衛

大阪書林

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』　請求記号 049.1-N342t
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『とはすかたり』 請求記号 049.1-N342t

ガラス使用